

特定非営利活動法人 A SEED JAPAN 第 6 回通常総会議事録

1. 開催日時 2019 年 6 月 8 日（土） 18 時 30 分～20 時 45 分
2. 開催場所 JICA 地球ひろば（東京都新宿区市谷本村町 10-5 JICA 市ヶ谷ビル内）
3. 出席状況 正会員総数 109 名 有効数 64（出席 12 名委任者 30 名、書面表決者 22 名）

以下、敬称略

出席役員：田川道子、西島（鈴木）香織（オンライン）、浜田恒太郎、三本裕子、江口健介、石原遼平

欠席：矢口拓也

出席正会員：小川暁平、露木佑亮、朴鎮洙、石田祥子、石田小百合、山本悠久

出席準会員・サポーター：富田一

4. 議決権総数 64 個 有効議決数 64 個（うち出席 12 個、委任状 30 個、書面表決 22 個）

定刻、司会より、議長として浜田恒太郎を指名することの提案があり、これを諮ったところ全員異議なく承認しました。その後、定足数の確認を行いました。有効出席数及び有効議決権数について確認をし、直ちに議案の審議に入りました。

5. 議 事

第 1 号議案 議決事項 1：2018 年度事業報告

各プロジェクト・チーム担当理事より 2018 年度活動報告について説明が行われ、質疑応答を行いました。

【議決】

◆賛成 63 個（うち出席 12 名、委任 30 名、書面表決 21 名）、反対 0、棄権 1 名（うち書面評決 1）

【質疑応答・意見交換】

（1）エネルギー政策チームについて

質問：短期目標（1）-②に関して、この成果の把握は、どの様に行っているのか。

回答（西島）：WEB サイト「このデンキがヤバイ！」から情報提供の要望をされた方の中で、パワーシフトした人という連絡が来た方をカウントしている。

意見：影響を受けたという人のハードルが高いのではなかろうか。直接申し込んだという人は、3 名だったかもしれないが、影響を受けた人は、もっといたのではなかろうか。

（2）核ごみプロセスのフェアに！プロジェクトについて

質問：短期目標（1）の評価が、視察を実施しているにも関わらず、低いのではないか。

回答（西島）：ありがとうございます。もっと活動したかったという思いから、評価が低くなった部分もあるが、ヒアリング後の公開を行えていないというもあった。

質問：短期目標（3）の評価が、提言を実施しているにも関わらず、低いのではないか。

回答（西島）：団体として、声明は発表したが、キャンペーンというほどの活動は行えず、若い世代に対して影響は、あまり与えられなかったのではなからうかと思ひ、この評価になった。

回答（三本）：会員の意見を聞いていて、評価の仕方について、明確ではなく、曖昧さがあつたという認識を持った。短期目標に対して、複数の実行手段があり、それぞれで、達成度が異なる中で、どの様に、総合的な評価を下すのかという部分に関して、議論が不足していた。

（3）報道採録について

質問：掲載基準とは、どの様になっているのか。エコ貯金プロジェクトのフェア・ファイナンス・ガイドについて、報道採録は、あつたと思いますが、それは、A SEED JAPAN のものではないという認識だったのであうか。

回答（田川）：特に決めてはあなかつたが、言われてみればそうなので、掲載したいと思ひます。

第1号議案 議決事項2：2018年度決算

事務局より、2018年度決算について説明を行いました。

【議決】

◆賛成 61個（うち出席12、委任30、書面表決19）、反対 1（うち書面評決1）、棄権 2（うち書面評決2）

※反対理由：2018年度の決算の赤字に対しての説明がなく、また、2019年度の予算計画もない為。

【質疑応答・意見交換】

（1）SPRING 会員について

質問：2016年度から、2017年度にかけて、寄付が20万円近く減っている。SPRING 会員の減少が主な原因なのであうか。

回答（富田）：スプリング会員が、主な原因ではないが、2016年度から2017年度にかけても、スプリング会員は、減っている。また、2016年は、設立25周年ということで、A SEED DAY（同窓会）が、他団体の人をゲストに迎え、大々的に行われ、その際にいただいたご寄付が、例年よりも多かつた。定期的にやっていたひまごみらいが行っていた結イレブンの部分は、ASJの収支にはあつているわけではない。

(2) 支出における事業経費について

質問：18ページの支出推移における事業経費が、年々減っているが、それは、事業が効率化しているのか、若しくは、事業そのものが縮小しているのか、どちらなのでしょう。

事業を行う上で、ある程度のインプット（投資）は必要なわけで、その分成果が出せなくなっているのかもしれない。ただ、前者の様に効率化されることで、事業経費が減っても、アウトプット（成果）が、変わっていないのであれば、良いことだと思う。

回答（富田）：まず、経費が減った原因について説明します。経費の削減は、している。発送物を少なくし、紙を使わない様になった。環境に配慮しており、同時に、発送費の経費も削減できた。2014年度・2015年度は、アースデイ東京の事務局を受託しており、事業経費が、600万円程あった。16年度からは、受けていない。17年度から、18年度にかけては、140万円程の経費が減ったり、今年度も事業経費が減っている。事務局長を始めとした、スタッフの世代交代の時期でもあり、活動のパワーダウンがあったのかもしれない。来年度から積極的に活動していきたいと思う。

意見（田川）：ASJでは、全体的な活動量が減っていると思う。プロジェクトの数、メンバーの数も減っている。昔ながらのNGO的なマンパワーを使った動きというのは、ASJの中では、だいぶ減っている。ただ、今は、マンパワーだけでは限界があり、同時に、マンパワーをかければ、成果が得られる時代でもない。少ない人数の中で、どうインパクトを出していくのかを前向きに検討していければいい。

意見（濱田）：ASJも25周年が経った。2021年で30年を迎える。社会における市民活動、NGO・NPOという存在も広がり、認知度も上がり、NPOという存在が、一般的になってきている。ただ、社会の変化が激しい中で、過渡期を迎え、試行錯誤をしているという実感であり、認識を持っている。2021年に向けて、ここ数年かけて、話し合いながら活動していこうと考えている。

【討議事項1及び、2を通しての質疑応答・意見交換】

(1) 23・24ページの「会員の皆様からのご意見」について

質問：23・24ページの「会員の皆様からのご意見」に幾つか質問も寄せられているが、それへの回答は、いつするのか。今、この場で行うのか、後日電磁的な手法を用いて行うのか。

回答（濱田）：後日返答するように考えています。

意見（三本）：今、答えられる範囲で、答えてはどうか。

回答（石原）：「【事務局報告】」の3つの質問に対して、回答したいと思います。

(1) について

会員の増減について、単年ではなく、経年での推移を求められていると思う。今は、まとめたものがないので、後程説明することになる。

(2) について

新規の会員獲得が、あまりできていないことは、確かにそう思う。事務局に入ってから、意識している

部分ではある。取り組んでいることとしては、会員数が、どの様に推移したかの分析し、増やす為に、どの様にターゲットを定めて、アプローチし、増やしていくのか。この二つを考えている。学生主体と国際性をベースにして、会員に情報提供して、コンテンツの提供を考えていきたい。

(3) について

多くの場合は、メールで退会の連絡を貰う。その際に、退会の理由を聞けることもある。それらを基に、会員獲得に活かしている部分もある。ただ、まだ会員の状況を把握している段階であり、今年度から来年度にかけて、次の展開を打ち出せたらと考えている。

回答（田川）：一つは、私自身が、現在の学生と若手の社会人と年齢も離れてきて、彼らが何を考え、何を求めて、社会問題に取り組んでいるのか、わからなくなっている。二つ目は、ASJのコンセプトが、解り難くなってきているのではなからうか。漠然と環境問題や社会問題を掲げているが、その中で何をしているかという部分は、他の団体と比べれば解り難い。世の中の流れとして、パッと見て分かり易いことが、凄く重視されている印象がある。世の中の流れについていくことが、良いかどうかは分からない。ただ、「なぜ、伝わっていないのか。」という部分を分析した上で、今までの姿勢を貫くのか、重要な部分は残しつつも、時代の流れについていき変化していくのか。そういった部分を今年度、話し合っていく必要があるのではないかと思う。

回答（石原）：事務局の方から、会員数の推移などを分析した結果を示せていない。さっきのお金の話も同じではあるが、まずは、そういった会員の動きも整理して、出したいと思う。

回答（三本）：会員になる人と、ならない人とがおり、同時に、ASJに関わった切欠は、様々である。オリエンテーションに参加した人、セミナーで知った、フラッと寄った人などがあり、その中で、何人が、会員になり、活動体に入り、定期的にイベントに来てくれる人などに分けて、分析してみても良いのではと思った。

意見：逆に気になったのですが、環境系のボランティアをする人の数は、他の団体では伸びているのか。他の団体に比べても、減っているのか。新規の会員の獲得が、伸び悩んでいるということでしたが、他の団体よりかは、頑張っているのかもしれない。そういった部分の比較ができれば面白いなと思いました。

返答（濱田）：オリエンテーションには、毎月数人ずつだが、来てくれている。2011年の震災や2010年のCOP10などによって、問題関心が変化し、環境問題について考えるようになってきている。地域や街づくりなどの違う領域への関心広がり、環境当たり前になってきており、企業も率先して、取り組む様になってきた。その中で、見づらくなっていることもある。そういった社会的な変化の中でも環境問題の意味合い、位置づけもこの10年の中で変わってきている。学生の活動への考え方も変化してきている。社会問題は、1年間くらいでは、そう簡単に成果が出る様なものはほぼないと思

う。ゴミ拾いとかは、短期間は、見え易いが、3か月～半年で、成果を実感したいのであれば、ASJの活動では、成果が解り難さに繋がっている。そういったASJの現状と、社会の変化の中で、どうマッチングさせていくかを考えていく必要は、感じている。

補足（富田）：23・24ページの【会員の皆様からのご意見】の中で、「2018年度の赤字決算の原因分析及び、2019年度に向けての対策がない。」というコメントについて、補足します。事前にコメントをいただいた時点では、まだ、16～18ページの2018年度決算への総括と、来年度の予算に関する部分を共有できておりませんでした。本来であれば、事前に共有すべきものでありましたが、資料に不備があった為に、いただいたコメントと認識しております。

6. 報告

報告事項1：2019年度事業計画（SEED PLAN2019）

各プロジェクト・チーム担当理事より2019年度活動計画について説明が行われ、質疑応答を行いました。

補足（田川）：エコ貯金プロジェクトの今後に関してですが、今年いっぱい、チームとしては閉じていきたいと思っている。活動が、FFG一色になりつつあり、FFGは事務局が主導しているので、そちらの方に集約していこうと思っている。エコ貯金プロジェクトとしては、短くても今年いっぱいになる。チーム名を残す理由としては、今、エコ貯金プロジェクトの名前で走っている案件が幾つかある。例えば、セミナー開催が予定されている。また、「あるマップ」という半蔵門での地域誌面での連載があり、今年いっぱいくらいは、エコ貯金プロジェクトの名前で載せていきたい。私自身としては、今年中に終わる。あと残された期間で、対外的なつながりがあった人を、ASJに繋げていきたい。

【質疑応答・意見交換】

（1）核ごみプロセスのフェアに！プロジェクトについて

質問（田川）：核ごみプロセスをフェアに！プロジェクトの予算計画の支出の旅費交通費の200万という予算について、どのように使うのか、内訳について教えてほしい。

回答：細かい内訳は、決まっていない。旅費に関しては、一つの地域に長期的に滞在する為、200万円という金額で想定している。北海道や佐賀などで、飛行機を使う分を含めると、それくらいになってくる。4月も、青森に行っ際も、2泊3日行ってきた。

質問（三本）：資金調達先の欄で、クラウドファンディングが、組み込まれているが、これは、ASJとしてやっていることなのか、その位置づけについて、確認したい。私としては、ASJで行うものではないという認識ですが、その場合に、資金調達の部分ではなく、その他の部分に書いた方が良いのではないかと。

回答：クラウドファンディングは ASJ としてやるわけではないので、記載場所は変えたいと思う。

質問：なぜ、ASJ としてではなく、非会員のメンバーと、個人単位でやっているのか。また、どのような人が関わっているのか。

回答（西島）：フリーライターの稲垣美穂子さんと協力してやっている。2017 年度にチームとして、お世話になった方で、シンポジウムの企画協力をしてくれたり、提言書を一緒に作ったりした。会員ではないが、協力者として、関わってくれている。今回の経緯としては、彼女が、資金調達をして、活動をしたいと言っており、私も同じことやりたいと思っていた為、一緒にやることになった。

補足：予算計画に関して、補足する。アクト・ビヨンド・トラストの 60 万は、確定している。クラウドファンディングの 200 万円は、予定である。ASJ と稲垣さんと協力して行っているが、資金の受け取り元は稲垣美穂子さんになる。その為、2019 年度予算の収支に反映されていません。

（2）エコ貯金プロジェクトについて

意見：フェア・ファイナンス・ガイドについて意見です。短期目標について、「認知度を高める」という目標一つであるが、その為の活動計画のうち、（2）に関しては、繋がっていないのではなからうか。認知度が高まった結果として、メッセージ数が、増えるのでは。（2）を残すのであれば、それに繋がる短期目標を作るか、短期目標を今のままでいくのであれば、逆に活動計画の（1）に関して、いい数だけでなく、セミナーの集客数などの別の数値目標を考えた方が良いのではなからうか。

（3）エネルギー政策チームについて

質問：パリ協定を見据えて、自然エネルギーの方にシフトさせていくことと、これまでの石炭火力発電のアーカイブを作っていくことの二本柱と認識しているが、この 2 つ関連性、特に後者は、前者に繋げる為に行うのかどうか。例えば、アーカイブをすることで、自然エネルギーの増加やパリ協定の実行に繋げる意図はあるのかどうか。全く繋がっていないのか、その位置付けについて、聞きたい。

回答（石原）：全く繋がっていないわけでもないが、チームとして、明確につなげようとしているわけではない。

アーカイブの話は、関東だと、横須賀で、石炭火力発電所の建設を巡って、訴訟までいっており、深刻な問題だと思っている。。そういう意味では、現在進行形の課題がある中で、今、争っているところの結果はまだ、これから出るわけですが、既に建ってしまっているものの経験や情報が、知られていないと感じている。また、現在進行形の活動は、他の団体さんともやっており、ASJ として何かできることはないか考える、中で、現地調査という結論に行き着いた。

そういう意味で、2 つを繋げているイメージはないかもしれない。

質問：後者は、横須賀の発電所を建たせない為の論理的な根拠付けになりうるという認識なのか。環境とかにフォーカスされているが、それだけでなく、現地の人々がこう思っていて、こういった悪影響もあり、だから建てるべきではないという主張ができるなどのイメージなのか。

回答：（石原）はい、そうです。

報告事項2：2019年度予算（案）報告

2019年度予算について説明が行われ、質疑応答を行いました。

補足（富田）：記載されている以外に、新たな助成金の獲得を考えており、また、受託事業として、大学から調査補助の依頼もいただいており、赤字予算ではあるが、その金額が改善される可能性もある。

質問（石原）：税理士事務所顧問料の月額3万円は確定の額なのか？

回答（富田）：先方と打ち合わせ後に確定する為、現時点で見込みの数字となっている。事務局の会計業務の業務量と、委託する部分を想定し、単価等も加味した場合、この金額になるという想定であり、場合によって、減る可能性もある。

質問：【会員の皆さんからのご意見】で、法人格の維持に関してコメントがありましたが、維持するためにお金はかかるのか。

回答（富田）：法人格の維持自体は、費用はかからない。どちらかという、団体としての維持の話という認識。赤字を出す中で、団体として、維持する意味があるのかどうか。

回答（濱田）：有給スタッフの数などの事務局体制のあり方という認識。

回答（小川）：私に認識としては、団体としてというよりも、法人格を維持し続けることへのコメントと認識していた。ただ、どちらとも受け取れると思っている。法人格を持つことで、直接的な費用は、ないかもしれないが、間接的に、事務作業等が増えて、それによって、増える人件費という間接的な費用は、あるのかもしれない。例えば、引越しの際には、登記簿の更新が必要で、その為だけに臨時総会を開かなければならない。

回答（富田）：法人格の維持における業務として、申請書類は、毎年東京都に必要である。ただ、一部の任意団体や企業では、支払わなければならない法人住民税が、NPO法人であれば、年間約10万円ほど、免除されている。また、法人格を持っていることで、社会的な信用が得られる。

報告事項3：2019年度役員について

2018年度役員（西島、浜田、田川、三本、江口）を紹介した後、2019年度の理事会で承認された西島香織、浜田恒太郎、田川道子、三本裕子、江口健介、石原遼平より、担当分野お

よび意思の表明を行いました。

石原：理事になったということで、ASJは、歴史があるというか、長く続いている団体で、ネガティブの情報もいっぱい出てきたと思う。お金や縮小の話など。ただ、逆に変革期なのだと考えている。社会が変わる中で、ASJもどう変化していくのか。また、社会は変わっても、問題は減っていないわけで、ASJがどう取り組んでいくのが大事だと思う。

田川：理事自体は、今年で降りる予定。関わって、4、5年経つが、ボランティアで関わる人が多く、就職等の環境が変化していく為に、急にいなくなる人が多かった。私は、しっかりと引継ぎをしていきたい。

浜田：今年度は代表としてやっていく。変化のタイミングであり。過渡期も来ている。その部分に対して、議論をしっかりとしていきたい。

三本：新しい事務局体制、新しい理事体制になり、方々からご意見をもらっている。活動について話していく時間を増やしたい。

江口：担当は、組織基盤です。事務局の新体制が大きな肝になる。この予算の中で、会員からの意見をどう捉えて、社会の状況に適応していくか。どう集中してコミットしていくか。

西島：育児があるから、どれくらい活動ができるか、悩ましいところ。子供が生まれたことで、違った当事者感を感じている。社会問題に危機感を持っている。核廃棄物問題についても。次世代育成 ASJ 的なマインド持つリーダーを育てていきたい。

7. 議事録署名人の選任

議長より、議事録署名人として、山本悠久と田川道子の2名を指名したいとの提案があり、これを諮ったところ全員異議なく承認しました。

以上の報告を持って、議長は20時45分閉会しました。

以上